

図表1 世界各国人口上位10カ国の推移

(単位:百万人)

2009年		2025年		2050年	
1 中国	1,346	1 中国	1,453	1 インド	1,614
2 インド	1,198	2 インド	1,431	2 中国	1,417
3 アメリカ合衆国	315	3 アメリカ合衆国	359	3 アメリカ合衆国	404
4 インドネシア	230	4 インドネシア	263	4 パキスタン	335
5 ブラジル	194	5 パキスタン	246	5 ナイジェリア	289
6 パキスタン	181	6 ブラジル	214	6 インドネシア	288
7 バングラデシュ	162	7 ナイジェリア	210	7 バングラデシュ	222
8 ナイジェリア	155	8 バングラデシュ	195	8 ブラジル	219
9 ロシア	141	9 ロシア	132	9 エチオピア	174
10 日本	127	10 メキシコ	123	10 コンゴ民主共和国	148

(出所) 国際連合「World Population Prospects: The 2008 Revision」より筆者作成

図表2 アジア各国における実質成長率比較

(%)

	2007年	2008年	2009年	2010年(予測)	2011年(予測)
中国	13.0	9.6	8.7	9.6	9.1
インド	9.2	6.7	7.2	8.2	8.7
韓国	5.1	2.3	0.2	6.0	4.6
シンガポール	8.2	1.4	-2.0	14.0	5.0
タイ	4.9	2.5	-2.3	7.0	4.5
インドネシア	6.3	6.0	4.5	6.1	6.3
ベトナム	8.5	6.2	5.3	6.7	7.0
マレーシア	6.2	4.6	-1.7	6.8	5.0

(出所) ADB (2010), Asian Development Outlook 2010 Update.

お買いになるか、中国、インドといった単一に投資を行う投資信託を複数組み合わせるとよいでしょう。この会話例では、今後も成長が期待できるアジア新興国を取り上げてみた。アジア新興国の現状を説明すると、興味深々となるお客様は多い。そういったお客様には、代表的な新興国である中国、インドだけでなく、ASEAN諸国に投資する投資信託なども提案されることとよいといえる。

ただ、新興国といっても様々な国がある。お客様が最も期待するのがBRICs諸国である場合も想定される。ここでの会話例はアジアの新興国に絞ったが、お客様が経済規模を重視するのであれば、BRICsに投資する投資信託を提案してもよいだろう。

さらに、地域分散を考慮するのであれば、BRICsの中の一国ではなく、複数国を組み合わせるか、最

初から複数国を組み合わせ運用を行う株式投資信託を提案するとよいであろう。


いづれにせよ、新興国への投資はリスクが高い点を十分に説明しておくべきであり、余裕資金の範囲内で投資してもらう点は提案の際にしっかりと説明する必要がある。

そのほか、新興国は先進国と比較して金利が高い点を考慮すれば、新興国が発行する国債などに投資を行うのも投資妙味があるといえる。

こうした提案をする際には、為替リスクがある点やデフォルトリスクがある点は十分に説明したい。くれぐれも金利差だけに注目するのではなく、その国がどんな特徴を持っているのか、今後経済成長の見込みはどうなのか、財政は大丈夫か、中東のような政変リスクはないかどうかなども検討のうち、投資を行うようにアドバイスしよう。

case 3

新興国への経済成長に期待しており積極的な運用を希望しているお客様



金

融危機後の新興国経済の立ち直りは速く、新興国が今後も世界の経済成長を牽引する役割を果たしていく。そんな期待を寄せるお客様も多いのではないだろうか。

着実な成長が見込まれるアジア新興国の経済

一般的に経済成長をするための条件としては、労働投入量(人口成長など)、資本投入量(設備投資の増加など)、生産性向上(技術革新など)の3つの要素が挙げられる。現状の日本を見ると人口増大は見込みにくく、長期的に見ても国内における設備投資の大幅な増加は見込みにくいといえる。

一方、大多数の新興国では、今後も人口成長と、それに伴う消費拡大が見込まれるため、1人当たりのGDPは拡大の一途をたどると考えられる。

地域分散投資を提案

このような状況を鑑みると、本ケースのように新興国への投資を積極的に行いたいと考えるお客様

にとつて身近であるアジア各国の実質GDP成長率の推移を取り上げたい。

2009年の実質経済成長率は金融危機の影響を受け、マイナス成長となっている国もあるものの、2010年は大幅な回復が見込まれている。中国・インド・インドネシア・ベトナムを見ると、金融危機時であっても安定的なプラス成長を遂げており、今後も着実に成長していくと推測される。

「お客様「最近の経済の動きを見ると、長期的に見て新興国投資のパフォーマンスが良くなりそうに思えるのだが、どうかな?」

担当者「そうですね。新興国が世界経済を牽引していく役割を果たす要素は、今後ますます大きくなると思われれます」

お客様「そうすると、どんな国がいいのかな? 個人的には民主化が進んでいて、人口が増えているようなアジア各国がいいのではないかな?」

担当者「アジア新興国の強みは、なんといっても若い労働力に期待できる点でしょう。平均年齢が20代という国もあります。これから経済を引っ張っていく世代が多いこと、これからインフラが整備されていくこと、実質経済成長率が毎年5%以上で推移している国もあることなどを考えると、アジア